

米澤工業會誌



水入れの田圃

米沢市北西方向の六郷地区である。水入れが済んだ5月中旬の田圃で、黎明時の空気感を感じて頂けると嬉しい。江戸時代は6つの村(全て上杉藩領内)であったが、明治に統合し六郷村となり、昭和に米沢市と合併した。

最上川の上流である鬼面川(おものがわ)が近くを流れ水の便は良好な地で、古くから稲作が盛んだったと思われる。川東の窪田地区には、4世紀後半に作られた竇領塚という古墳があり、

当時からの稲作帯で、ヤマトの支配下にあったことを物語っている。古代人も見たであろう黎明に「どんな様子であったろうか」と思いを馳せる。

今はスマホと携帯の中継アンテナがあり、現代そして未来への時代の変遷を思わせる。水が温んで来た頃、機械による田植えが始まり、(無人運転ではないが)夜毎蛙の大合唱が始まる。

鈴木 孝制

2019.6

No. 156